

小児神経学の進歩

第14集

日本小児神経学会卒後教育委員会・編

株式会社

診断と治療社

= 目 次 =

〈生後の脳発達〉

形態学的発達	高嶋幸男	1
I 形態学的研究方法		1
II 神経細胞の部位別発達		2
III 髄鞘形成とグリア		8
IV 脳血管構築		11

〈生後の脳発達〉

生理学的発達—脳波	中嶋健之	20
I 脳波発達を評価する際の注意		20
II 小児脳波の発達		21

〈生後の脳発達〉

生理学的発達—ABR	望月康弘	39
I 歴史的事項		39
II 刺激音作成の基礎的事項		40
III 聴覚系の生理学		40
IV ABR記録の実際		41
V 発生源		41
VI 反応波形の分析		43
VII ABRに影響を与える諸因子		43
VIII ABRの成熟変化		43

〈生後の脳発達〉

生理学的発達—運動・反射機能	北原信	50
I 脳と行動		50
II モロー反射		52
III 移動運動の発達の変化		55
IV Crossed-diagonal patterns		57
V 姿勢保持・移動運動と脳		59

小児の難聴	古賀慶次郎	65
I きこえの生理		65
II 聴性脳幹反応 (auditory brain stem response)		65
III 行動反応聴力検査		70
IV 集団検診と早期発見		71
V 聴能訓練		74
VI 難聴の程度と原因		74

水頭症の手術適応—病態生理の考察を中心として	佐藤 漢	78
I 髄液循環障害部位による水頭症の分類		79
II 髄液の产生、循環、吸収について		80
III 水頭症の成立機序		85
IV 水頭症の手術適応と補助診断法		88

脳変性疾患の生化学	衛藤 義勝	98
I ミエリンの概念		98
II ミエリンの生化学組織		99
III ミエリンからみた leukodystrophy の病態		101
IV 小児の脱髓疾患の一般的生化学所見		102
V 各論		103

脳変性疾患の病理	鴨下重彦	113
I 神経（内臓）蓄積症		113
II ロイコジストロフィー		115
III 軸索変性症		119
IV その他の変性疾患		122

=Clinical Conference (C. C.)=

運動および知的退行で発症し、ミオクローヌス、 けいれん発作を伴い、のちに視力障害をきたした1例	[司会] 大澤真木子	126
	[症例担当] 落合隆子	
	宍倉啓子	
	矢島邦夫	
	[指定発言] 泉達郎	

=Clinical Pathological Conference (C. P. C.)=

片麻痺、性格変化で発症し、けいれん、 知能障害、四肢麻痺、嚥下障害をきたして死亡した思春期男子	[司会] 北條博厚	145
	[症例担当] 中川嘉洋	
	[病理担当] 神谷敏也	

臨床脳波判読の実際	飯沼一宇	157
I 脳波のオーダー		157
II 脳波の判読		160
III 脳波のレポート		169

小児難治性てんかんへの対応	関亨	170
I 難治発作 (intractable seizures) の実態		170
II てんかん児 (者) に対する両親の行動評価		173
III 難治発作・情動障害に対する対策		176